様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2012～2013
課題番号：２４８２００１８

研究課題名（和文）１９世紀パリ万博における日本―ナショナル・アイデンティティと文化イメージの形成―

研究課題名（英文）Japan at the World's Fairs of Paris in 19th century : Forming the national identity and the cultural images

研究代表者
寺本　敬子（Noriko, Teramoto）

一橋大学・大学院社会学研究科・特任講師（ジュニアフェロー）

研究者番号：８０６３６８７９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,300,000円、（間接経費）　690,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は19世紀に開催された全5回のパリ万博の内、日本が参加した4回の万博（1867年、78年、89年、1900年）に焦点を当て、フランスと日本の相互作用を通じて、いかなる「日本」像が形成されたのか、その形成過程および変遷を明らかにすることを目的とした。平成24年度と平成25年度を通じ、第一に1867年・1878年のパリ万博に関する研究総括、第二に1889年・1900年のパリ万博に関する日本関係史料の整理といった研究成果を得た。以上から、各パリ万博で日仏の双方にどのような政治的・経済的な意図があり、それが日本イメージの形成にどのようなかたちで作用したのかを、複合的に考察することが可能となった。

研究成果の概要（英文）：This research studies on the participation of Japan in the World's Fairs of Paris in 19th century (1867, 1878, 1889, 1900). These Fairs contributed to the development of relations between France and Japan, and the creation of "Japonisme" in France. However, the image of "Japan", formed through the interaction of the French organizers, the Japanese mission and visitors, was not the same among them. This research contributed to elucidate the political, economical, social backgrounds and diplomatic relations, which affected the national identity and the cultural images of "Japan" in the 19th century.

研究分野：西洋史

科研費の分科・細目：西洋史

キーワード：フランス史　パリ万国博覧会　日仏交流史

１．研究開始当初の背景

本研究の開始当初の背景は以下のとおりである。本研究は「19 世紀パリ万博における日本」を主題とするが、とりわけ万博をナショナル・アイデンティティおよび文化イメージの形成の場として注目した。万博会場では、開催国の意向が色濃くあらわれ、それは出品物の分類やどの位置に諸外国を位置づけるかといった構成自体に反映されている。一方、参加各国は、開催国の定めた出品分類と展示区画といった制約を受けながらも、出品物の展示を通じて自国の文化イメージを発信しようと試みた。そして観衆は、それぞれの展示を通じて異なる文化に触れ、それを独自の解釈で受容することで他国に対するイメージを形成していったのである。こうした観点からすると、万博は、単なる諸国の物品提示の場であったのではなく、開催国による世界観の具現化であり、また同時に参加各国も出品物の展示を通じて自らの文化を発信し、それを通じて諸外国と観衆がその国の文化像を形成する格好の舞台であったと言える。本研究は、こうした開催国、参加国、観衆といった三者の動向に着目した。

具体的には、本研究は日本が参加した合計 4 回のパリ万博（1867 年、1878 年、1889 年、1900 年）を研究対象とするが、その際に「物」と「人」という二つの軸に留意した。それぞれのパリ万博で、具体的にどのような日本の「物」が、どのような意図で出品され、またどのような仕方で展示されたのか、そしてそれがいかなる反応を引き起こしたのかを分析した。またこうした万博における「物」と同様に、「人」の果たした役割も重視した。万博を契機にヨーロッパに渡った「日本人」は、フランスの人々から見られる存在として好奇の対象であり、「日本」のイメージを形成する重要な役割を担っていた。しかしそればかりではなく、これらの日本人は能動的な存在として、先端技術の摂取や近代国家の構築に励むとともに、万博を通じて積極的に日本の情報をフランスに伝えるなど、「日本」イメージの形成に積極的な役割を果たした。もちろんフランス側も、外交官、万博委員会、批評家、産業従事者など、これらのフランス人の活発な言動が「ジャポニスム」の形成に多大な役割を果たした。こうした万博における「物」と「人」を軸に、日仏の相互作用のなかで形成された「日本」イメージを明らかにすることが本研究の開始当初の背景および目標であった。

２．研究の目的

本研究は、上述したように、19 世紀に日本が参加した計 4 回のパリ万博に焦点を当て、フランスと日本の相互作用のなかで、いかなる「日本」像が形成されたのか、その形成過程および変遷を明らかにすることを目的とした。フランスでは、日本が初めて公式に参加した 1867 年パリ万博を契機として、「日本」に対する関心が高まり、1870 年代に入るとそれは「ジャポニスム」という文化現象に発展した。その後も、日本は継続して 1878 年、1889 年、1900 年と全てのパリ万博への参加を続け、「日本」という文化イメージをフランス社会に定着させるにいたった。本研究は、万博における「開催国・参加国・観衆」といった三者の相互作用に着目するとともに、「物」と「人」という軸に留意し、日仏交流を通じた「日本」像の形成過程の解明を目的とした。

より具体的には、日本が参加した 4 回のパリ万博について、以下のように時系列的な流れに留意しながら、フランスと日本の双方の主題を設定し、研究を進めることを目指した。①1867 年パリ万博における、第二帝政期フランスの政治的・経済的な企図と、初参加となった日本（幕府・薩摩藩・佐賀藩）の政治的意図、②1878 年パリ万博で顕著となる第三共和政期フランスの帝国主義・植民地主義の拡大と、ジャポニスムの隆盛、明治政府による殖産興業政策としての万博参加、③1889 年パリ万博におけるフランス革命百年祭という性格と、ジャポニスムの衰退、④1900 年パリ万博における「19 世紀の大祭典」の完成と近代国家日本の成立、以上の 4 つの主題である。

３．研究の方法

本研究は、歴史学の方法論に基づき、フランスと日本の文書館等における万博史料の調査・分析を進めた。具体的には、19 世紀に日本が参加した計 4 回のパリ万博を対象に、日本の参加にかかわる日仏の史料を分析および比較検討し、「日本」像の形成過程および変遷を明らかにした。

平成 24 年度は、①1867 年および 1878 年のパリ万博に関する研究代表者のこれまでの調査・分析の結果をまとめなおし、その成果を国内・国外の関連学会で発表すること、②1889 年と 1900 年のパリ万博に関して史料調査・分析を進めることを計画した。

平成 25 年度は、①1889 年・1900 年のパリ万博と日本の参加について史料調査および分析を継続的に進め、その研究成果をまとめること、②19 世紀パリ万博における「日本」のイメージ形成、パリ万博の機能および意義について総括することを目指した。

４．研究成果

平成 24 年度は、主として以下の 2 点の研究成果を得た。

（１）1867 年と 1878 年のパリ万博に関する研究成果の発表

1867 年と 1878 年のパリ万博に関する研究代表者のこれまでの調査・分析の結果をまとめ、その成果を日本とフランスの関連学会において発表を行った。これらの具体的な研究内容および成果は、次の三点である。

第一に、1867 年パリ万博を契機に発展した徳川昭武を中心とする日仏間の「個人交流」

の解明を目的とした研究である。日仏間で交わされたフランス語書簡の調査を進め、その研究成果を発表した。平成 24 年 10 月には、戸定歴史館（千葉県松戸市）の企画展「徳川昭武のヨーロッパ体験」に合わせて、一般公開のかたちで開催された講演会で発表を行った。本講演では、1867 年パリ万博を契機とする徳川昭武とフランスとの関係の発展に焦点を当て、とりわけ昭武に宛てて送られたヴィレット将軍のフランス語書簡（全 105 通）について論じた。この書簡の分析を通じ、昭武とヴィレットの交際が、1867 年パリ万博を機会とする最初の出会いから、ヴィレットの死に至るまで、40 年の長期におよんでいたことが明らかになった。ヴィレットについては、1867 年の幕府使節の記録において頻繁に言及されるなど、同時期の日仏関係に重要な役割を果たしたフランス人のひとりであったにもかかわらず、これまでその経歴を含め、研究が行われてこなかった。そのため、フランス国防省文書館および外務省文書館に所蔵されるヴィレット関係資料を調査し、その全容を本講演で明らかにした。また、この他に昭武は、第二次軍事顧問団団長として来日したマルクリ中佐とも継続的に文通を行っていた。本研究では、昭武に宛てたマルクリ中佐のフランス語書簡（全 17 通）の翻刻および日本語訳を進め、フランス国防省文書館に所蔵されているマルクリ中佐の軍歴史料を調査した。この調査・研究の成果については、平成 25 年度に論文にまとめて発表した。

第二に、1870 年代にフランス社会で「日本」が「流行」に至った経緯を、1867 年パリ万博の開催動機となったフランス政府の産業振興策から分析した研究を発表した。まず平成 24 年 7 月のフランス史研究会では、初めて日本の公式参加が実現した万博として 1867 年パリ万博に焦点を当て、日仏の万博史料の分析に基づき、日本の展示状況、日本への評価について明らかにした。また平成 24 年 11 月には、一橋大学経済学研究科が主宰する Ph. D ワークショップで発表を行った。本発表では、19 世紀後半のパリ万博で高い評価を受け、ジャポニスムの社会的な流行の要因となった日本の陶磁器に注目して論じた。ここでは、19 世紀後半のフランスにおける日本陶磁器の輸入額を、フランスの貿易統計資料から分析し、まとめた。平成 25 年 1 月には関西フランス史研究会で発表を行った。本発表では、第二帝政期にフランスが重視した産業芸術振興策と、1870 年代以降のジャポニスムの接点について論じた。以上の平成 24 年度における口頭発表の内容については、平成 25 年度に論文にまとめて発表した。

そして第三に、1878 年パリ万博において日本事務局長として活躍した前田正名による「日本」の演出・広報活動に焦点を当てた研究を発表した。まず平成 24 年 5 月に日本仏学史学会において研究発表を行った。前田正名は、日本の殖産興業に貢献した人物であるが、彼に多大な影響をもたらしたフランス留学および 1878 年パリ万博における日本事務局長としての仕事については、先行研究でほとんど明らかにされてこなかった。そのため、本研究では 1878 年パリ万博に関わる前田正名とフランスとの関係を日仏の史料を通じて明らかにした。本主題については、平成 24 年の夏にフランス国立文書館等において史料調査を進めた。その研究成果を平成 25 年 3 月に、研究代表者が客員研究員を務めるパリ第一大学歴史学科・19 世紀史センターの開講セミナーで発表した。本発表ではとりわけ 1878 年パリ万博において前田正名が展開した日本のイメージ戦略について論じた。特に、前田が 1878 年にフランスで発表した日本の産業および社会に関する論文および単行本（いずれもフランス語による出版物）に焦点を当て、前田がパリ万博において演出した「日本」像を分析した。

2.1889 年と 1900 年のパリ万博に関する史料調査

上記の 1867 年と 1878 年のパリ万博に関する研究活動と並行し、1889 年と 1900 年のパリ万博に関する文献および史料を日本とフランスで調査することに重点をおいた。フランスでは、特に国立文書館に所蔵されるパリ万博の史料を調査し、そのなかで日本の参加経緯および展示内容に関わる史料を収集し、分析を進めた。またフランス国立文書館では、平成 24 年 9 月に文化財保存監督官長マガリ・ラクス氏と面会し、フランスにおける文書館の歴史、組織構成、教育について、最新の動向を含め、インタビューを行った。この内容については、平成 24 年度の一橋大学教育プロジェクト「社会科学における「資料の収集・保存・活用」教育の展開」に、とりわけフランスの資料保存の専門家の養成機関である国立古文書学校の近年の専門教育の動向に重点を置いてまとめた。

平成 25 年度は、主に以下の 2 点の研究成果を得た。

1.1867 年・1878 年パリ万博に関する研究の総括

1867 年と 1878 年のパリ万博に関しては、平成 24 年度から継続的に調査研究を行い、次の研究成果を得た。第一に、日仏歴史学会の学会誌『日仏歴史学会会報』に論文を発表した。本論文では、1867 年パリ万博と「日本」の流行にはいかなる接点があったのかを、日仏の万博史料および外交史料の分析から考察した。第一章で 1867 年パリ万博を開催したフランスの意図および背景を、第二章で日本の参加経緯とその思惑を分析し、両国の関係を双方向的に解明した。第三章では、博覧会場における日本の位置付けと、日本の出品物に対する評価を検討した。そして第四章では、フランスの産業芸術振興のなかで「日本」が注目されていく経緯を分析した。以上の分

析を通じて、「日本」がとりわけその工芸品の芸術的価値を認められ、さらに「流行の先端」に位置づけられた背景には、1867 年パリ万博の開催動機となった第二帝政期フランスの政府および産業界の要請が大きく関わっていたことを示した。

また平成 25 年 1 月には、「19 世紀フランスにおけるジャポニスム」と題する口頭発表（招待講演）を行った。本発表は、静岡県立大学の学生および一般公開のかたちで、ヨーロッパ文化コース講演会として開催された。本発表では、19 世紀後半にフランスで生まれた「ジャポニスム」は、いかなる政治的・経済的・社会的背景に関わるものであったのかを、パリ万博への日本の参加状況の分析から明らかにした。本研究については「1867 年パリ万国博覧会とジャポニスム」という主題で、平成 26 年に論文にまとめて発表した。

第二に、平成 24 年度から継続的に研究を行ってきた 1867 年と 1878 年のパリ万博への日本の参加に主要な役割を果たした日本人、とりわけ徳川昭武と前田正名に焦点を当てた研究をまとめ、口頭発表を行った。平成 25 年 10 月には、国際日本文化研究センター共同研究会「万国博覧会と人間の歴史―アジアを中心に―」において、「パリ万博と日本人」を主題に取り上げ、1867 年・1878 年パリ万博でそれぞれ主要な役割を果たした徳川昭武と前田正名について論じた。本発表の内容は、平成 27 年に論文集のかたちで出版予定である。

また上記と同様に平成 24 年度から継続的に調査を行って来た徳川昭武を中心とした明治期の日仏間の人的ネットワークに関する研究成果について、日本仏学史学会の学会誌『仏蘭西学研究』に論文を発表した。本論文では、第二次フランス軍事顧問団の団長として来日したマルクリ中佐と徳川昭武の交際関係に焦点を当てた。先行研究においてマルクリ中佐の経歴はほとんど明らかにされてこなかったことから、フランス国防省文書館に保管されているマルクリ中佐の関係史料を調査した。本論文ではマルクリ中佐の軍歴を明らかにし、彼が日本とどのような関係を築き、明治期の日仏交流史にいかなる役割を果たしたのかを論じた。今後も継続的に、マルクリ中佐のフランス語書簡の分析を進め、ヴィレット将軍との比較を交えて、明治期の日仏間の「個人交流」の発展について、単行本のかたちで発表したいと考えている。

2.1889 年・1900 年パリ万博に関する史料調査および分析

1889 年と 1900 年のパリ万博に関しては、平成 24 年度に行ったフランス国立文書館の万博史料を整理し、分析を進めた。またこの作業と並行し、新たにフランス外務省文書館の万博史料の調査を行った。以上の調査を通じ、後期のパリ万博にかかわる主要史料の収集を終えた。また現在、万博を含めた国際博覧会の運営を統轄する博覧会国際事務局（BIE、パリ本部）の資料室において、同事務局が発行する報告書等の調査を行い、20 世紀以降の万博の変遷にかかわる資料の収集を行った。

以上の平成 24 年度および平成 25 年度の調査を通じ、本研究が対象とした 19 世紀後半の 4 回のパリ万博（1867 年・1878 年・1889 年・1900 年）について、日仏の双方にどのような政治的・経済的な意図があり、それが「日本」イメージの形成に対してどのようなかたちで作用したのかという問題を、複合的に考察することが可能となった。今後は、既に収集・整理を行った 1889 年・1900 年パリ万博の日本関係史料の分析を進め、19 世紀後半のパリ万博を全体的に総括し、「日本」イメージの形成について考察を行いたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①寺本敬子、「1867 年パリ万国博覧会とジャポニスム」、喜多崎親編『パリⅠ―19 世紀の首都　シリーズ西洋近代の都市と芸術第 2 巻』（図書所収論文）、竹林舎、pp. 108-128。512 ページ、2014 年、査読無

②寺本敬子、第 1 回アーカイブズ訪問記録：フランス国立文書館、一橋大学平成 24 年度教育プロジェクト：社会科学における「資料の収集・保存・活用」教育の展開、活動成果報告書、査読無、第 1 巻、2013 年、pp. 11-12

③寺本敬子、アントワーヌ・シャルル・マルクリと日本、仏蘭西学研究、査読有、第 39 号、2013 年、pp. 41-52

④寺本敬子、1867 年パリ万国博覧会における「日本」、日仏歴史学会会報、査読有、第 28 号、2013 年、pp. 3-20

〔学会発表〕（計 7 件）

①寺本敬子、19 世紀フランスにおけるジャポニスム、ヨーロッパ文化コース講演会（静岡県立大学国際関係学部、招待講演）、2014 年 1 月 22 日、静岡県立大学（静岡県）

②寺本敬子、パリ万博と日本人―徳川昭武・前田正名―、国際日本文化研究センター共同研究会「万国博覧会と人間の歴史―アジアを中心に―」第 3 回研究会（代表：佐野真由子教授、招待講演）、2013 年 10 月 20 日、国際日本文化研究センター（京都府）

③寺本敬子、France et Japon au début de l'ère Meiji : Masana Maeda et la présence japonaise à l'Exposition universelle de 1878、Université Paris 1, Centre d'Histoire du XIXe siècle、2013 年 3 月 12 日、

パリ第一大学（フランス、パリ）

④寺本敬子、産業芸術とジャポニスム：1867年パリ万博をめぐって、関西フランス史研究会、2013年1月12日、京都大学（京都府）

⑤寺本敬子、パリ万博とジャポニスムの社会史、一橋大学経済学研究科 Ph.D.ワークショップ、2012年11月28日、一橋大学（東京）

⑥寺本敬子、徳川昭武と日仏文化交流―ヴィレットからの仏文書簡を中心に―、松戸市戸定歴史館企画展「徳川昭武のヨーロッパ体験」連動講演会（招待講演）、2012年10月23日、松戸市民会館（千葉県）

⑦寺本敬子、1867年パリ万国博覧会における「日本」、フランス史研究会、2012年7月7日、お茶の水女子大学（東京）

６．研究組織
(1)研究代表者
寺本 敬子 （TERAMOTO, Noriko）
一橋大学・大学院社会学研究科・特任講師（ジュニアフェロー）
研究者番号：80636879